

2010年度第4回中等教育機関日本語教師研修会：報告

今回は、楊家源先生(台中技術学院應用日語系講師)、緒方智幸先生(東海大學日本語文學系講師)をお招きし、「高校で文法をどう教えるか」をテーマに研修会を行いました。

日 時：(台北会場) 2010年10月16日(土) 14:00~17:00
(高雄会場) 2010年10月31日(日) 14:00~17:00

参加者：台湾の中等教育機関日本語教育関係者 (台北) 31名 (高雄) 27名

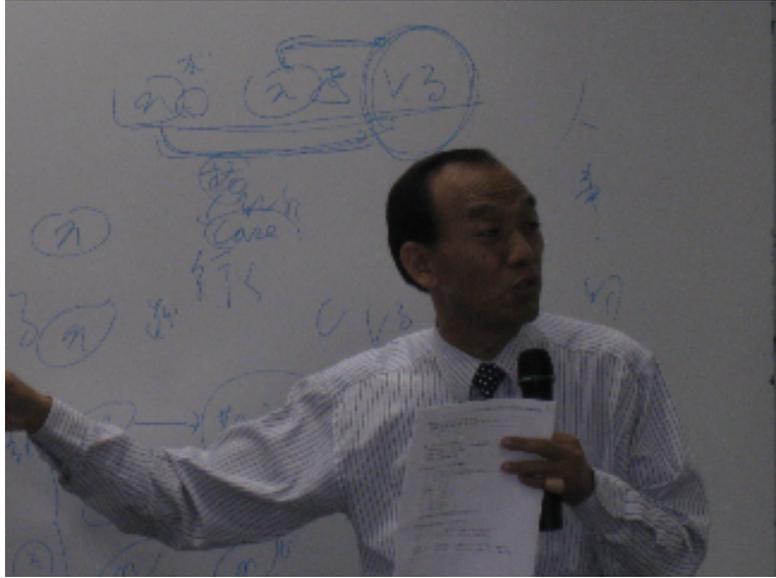
「文法をどう教えるか」という問題は、教師が「文法をどう理解しているか」という問題に大きく関わってきます。昔先生に習った通りに教えるというコピーではダメで、教師自身がしっかりと日本語の言語構造を把握していなければなりません。今回の研修会は、現場の教師がいい教え方を開発するために必要な日本語の言語構造を再確認していただくことを目的として、講義と実践例紹介という形で行われました。

まず前半は、楊家源先生から「文法の再認識」と題して、文の階層性、コトとムードについてのご説明を皮切りに、コトに関わる文法問題として、格助詞と格関係、主語とは何か、直接受身と間接受身、「が・を・に」の相補現象などについて解説があり、ムードに関わる文法問題として、副助詞の機能的意味、動詞・形容詞等の活用の問題、副詞による連用修飾の問題、名詞に後接する助詞の階層性、陳述副詞などについて解説があり、動詞を中心とする日本語の言語構造について、詳しくかつ簡潔なご説明がありました。そして、それに基づいた、中日翻訳の際の自然な日本文への訳出法についても解説がありました。

後半は、緒方先生から文法の教え方と練習の実践例をご報告いただきました。まずは、5W1Hを一つひとつ全て動詞と結びつけて繰り返し動詞を示すなど、動詞の重要性と動詞文の構造を学生に理解させる際の説明法が紹介されました。次に、授業記録映像を見せながら、音楽映像で学生の興味を引きつつ歌詞に現れる動詞に注目させて動詞文の練習へと展開していく授業の様子が紹介されました。更に、高校の授業ではあまり使われていない『みんなの日本語読本篇』の利点とその活用例についても紹介され、各課の文法項目が集中提示されている読本文の有用性が示されました。

以上のように、今回は、参加者の文法知識・理解を再整理し、その教育実践例を示す研修会となり、参加者は皆とても熱心に聴き入り、質疑を交わしていました。終了後のアンケートでは「緒方先生が授業経験をシェアして下さったことに感謝します。」「文法的概念をはっきりさせることができ、とても有意義でした。」「先生方は本当のプロです。大変勉強になりました。」などの好意的な感想の他、日本人教員からも「台湾人が文法をどのようにとらえているのか、またどんな表現方法の違いがあるのかを体系的に知ることができた。現場で感じていた学生の“不自然な日本語”のなぞが解けた。また、それを基に、どのように指導できるか、その方法も知ることができ、実践的な情報も得ることができた。ありがとうございました。」という声も寄せられました。また、「応用外国語学科の学生の学習成果をあげ、第二外国語の学生が面白くて生き生きとしたシチュエーションで日本語を勉強できるよう、先生方が応用外国語学科及び第二外国語の学生を教える際に採用されている教育法を知りたい。」「チャンスがあれば、もう一度楊先生に動詞か他の文法関連概念の説明をしていただきたい。」など、今後の研修会に向けての建設的な意見も寄せられました。

楊家源先生



緒方智幸先生



研修会の様子

